

令和4年12月、市川三郷町議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましてはご参集賜り御礼申し上げます。議会の開会にあたり、閉会中の町政の進捗と私の所信の一端を申し述べ、議員各位並びに町民の皆さまのご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

今年9月に公表された民間の調査「いい部屋ネット・住み続けたい街ランキング2022山梨」において、市川三郷町が第2位に躍進致しました。その中の項目で「誇りがある自治体ランキング」では第1位、「愛着がある自治体ランキング」では第2位という結果でありました。私が目指す「住んでいる人が地域を愛し、地域を誇り、地域に暮らす意義を実感できる住民本位の地域づくり」がこうした形で評価をいただいたものと実感すると同時に、「住み心地の良い町」日本一への一歩であると認識し、行政サービスの更なる充実に向けて更に取り組みを進めていく決意を新たにいたしましたところ です。

現在、新型コロナウイルス感染症は第8波と言われる状況下ではありますが、ふるさと夏まつり第34回神明の花火大会以降、ウィズ・コロナとして感染対策を十分に行ったうえで様々なイベントが催されております。その中で、若い学生の皆さんの活躍を目の当たりにする機会が増えたと実感しています。

大学生とワーケーションの可能性を議論していたところ、リモートワークの可能性を限定的に捉えた意見に対して「やろうとしていないだけで、ロボットを使えば均一なものが作れ、異物混入がなくなり生産性も向上する」との持論を展開する姿に頼もしさを感じました。

また、企画及び実行委員長を青洲高校生が務め、10月2日に甲府駅北口広場において行われた「やまなしグローバルフェスタ2022」、11月3日に増穂商業高校からの伝統を引き継ぎ青洲高校で開催された「瑠璃店」、さらに大学生が中心となり11月8日皆既月食の夜に生涯学習センターで開催された「空飛ぶランタン祭りin市川三郷町」など、若者の発想、自発性、実行力を大いに体感いたしました。

次に、町政の進捗についてご報告申し上げます。

はじめに【六郷 I C 周辺活性化について】です。

去る11月10日六郷町民会館において、「六郷 I C 周辺開発構想説明会」を開催いたしました。地権者・耕作者16名、宮原区長、六郷会会長、六郷地区の3名の議員の出席をいただきました。

町から民間活力と協調しながら事業を進める旨の説明をし、地権者を中心とした仮称「六郷 I C 周辺企業誘致を進める会」の組織づくりを進めることの同意を出席した地権者、耕作者より得ることができました。

今後は組織構成に着手し、提案企業と連携を図り進めてまいります。

次に、【機構改革に向けた取り組みの進捗について】です。

本町の機構改革につきましては、「組織及び職員意識改善検討委員会」総務部会において取り組み、本年8月9日から10月18日にかけて、現状把握を行うため、全課を対象とし、計20回のヒアリングを実施して参りました。現在、課及び係の再編に向け再編案の作成を行っているところであり、第1弾を来年3月の議会上程を目指して進めております。

一方、第三者委員会からのご指摘もありました「内部通報及び外部通報制度の確立」については、山梨県町村会として協議することが決定し、現在各自治体の法令担当職員が参集・検討を重ねております。本町においては口利き簿の整備も併せて検討しており、来年度からの運用に向けて鋭意作業中です。

また、入札制度改革におきましては、来年度の実施を目指し、財政部会において検討を進めているところでございます。

次に、【子育て支援事業について】です。

先般の臨時議会で可決頂きました町独自の子育て世帯への応援金の給付を前倒し、12月8日にプッシュ型で703世帯1,347人分の給付を行う事と致しました。また、その他、申請が必要な方に対しても申請書を11月28日に発送し、12月1日より受付を開始しました。

新型コロナウイルスの感染拡大は第7波から第8波へと終息が見通せない状況ではありますが、迅速な臨時給付金事業の推進と並行しウィズ・コロナを見据えた子育て支援への取組が重要となっております。

その一環として、10月30日に3年ぶりとなる「子育てフェスティバル」を、会場を児童館に移し開催致しました。

当日は17団体にご協力を頂き、45組90人の親子に限定しての開催ではありましたが、新型コロナの影響により親子で楽しめるイベントが中止となる中、参加された親子には楽しい時間を過ごして頂けたものと思います。

また、子育て支援センターなどにおいても町外の方が利用できる様ご利用者の声により規制を緩和し、指導員も工夫を凝らしたイベントを企画・開催するなど、活動内容の充実を図っております。

このように、私も子育て支援センターや各種イベントに伺い、直接、利用者の皆さんからお聴きした貴重な声を今後の施策の展開に活かしていきたいと考えております。

次に、【民生委員児童委員の委嘱について】です。

民生委員は、民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱された非常勤の公務員で、社会福祉の増進のために、地域住民の立場から生活や福祉全般に関する相談・援助活動を行っております。

本年度は3年に1度の改選の年であり、昨日（12月1日）、新任の委員30名を含む75名の委員の皆様へ、厚生労働大臣からの委嘱状の伝達式を行いました。

今後も支援を必要とする住民と、町や専門機関をつなぐパイプ役としてご協力をいただくとともに、本町の福祉事業や福祉活動の一翼を担っていただきたいと考えております。

次に【生活支援体制整備事業について】です。

本年度は高田地区をモデル地区として、これまで3回の説明会等を行い協議体の設置に向けた検討を進めております。

これまで高田地区公民館の役員の皆様を中心に事業に関する説明と勉強会を開催し、協議体設置の進め方の検討、直近では、地区の課題について意見交換を進め、12月中には高田地区の『支え合いを考える会』を開催する予定です。

今後は、本事業にご協力をいただける地区の皆様を募り、これまで検討してきた地区の困りごとなどの課題を基に、地区でできることの検討を進め、地域での活動を実際に進めていただく第3層の協議体立ち上げと具体的な活動内容などを検討していく計画でおります。

次に【商工業の振興について】です。

町伝統産業である印章と和紙につきましては、日本・オマーン外交関係樹立50周年を記念して10月4日に東京都のオマーン大使館で開催された「山梨宝飾ジュエリー展」へ招かれた際に、六郷印章業組合の全面協力のもと大使ご夫妻に水晶印を贈呈し、将来受注につながるようPR活動を行いました。

これがきっかけとなり、山梨中東戦略大使（山梨県知事政策局／地域ブランド推進グループ）米長晴信氏のご尽力により今年15日にはモハメッド アルブサイディ オマーン大使閣下ご夫妻が来町され、和紙、はんこ、花火産業をご視察いただく予定となっております。本町の誇る伝統産業の新たな販路開拓と新製品開発につながることを願っております。

また、10月22日に河口湖ステラシアターで開催された「東京ガールズコレクション」では、本町からの提案により県内の地場産業紹介コーナーが設置され、ステージ上では、市川和紙を用いた扇子を知事から紹介して

いただきました。

同じ10月22日に富士川道の駅において「甲州和紙PRイベント」が開催され、市川と西嶋の製紙業者が合同で、昨年立ち上げた新ブランド「甲州和紙」のPRと和紙販売を行い、町施設の「夢工房」も参加し、特に県外の方を中心に周知活動を行いました。

また、先ほどもご紹介した11月8日の「空飛ぶランタン祭り」へ町として協力いたしました。当日は約400名の参加があり、市川和紙の新たな可能性を見いだすことが出来ました。

10月28日、第49回信玄公祭りのオープニングイベントにおいて「神明の花火」として本町の花火を打ち上げていただきました。「神明の花火大会」と「信玄公祭り」のコラボ企画により、ファン層の拡大を図ることができました。

11月16日には、JR東海の本社広報室を訪問し、神明の花火大会における今後の集客について、更にご協力いただけるよう要望し、今後の連携を確認いたしました。

これらは本年度、新たに町が参加、協力したイベントであり、町の伝統産業の周知を県内外の方に行う機会の創出に努めました。

今後の予定といたしまして、来年3月から約2か月間、山梨県立博物館において「印章展」が開催されることが決まっております。広く印章の歴史・文化・芸術的価値を高め、印章の必要性を再認識していただく良い機会として、町も六郷印章業組合と協働し積極的に参画して参ります。

次に、【観光振興について】です。

11月2日から13代目市川團十郎白猿襲名に合わせて、お祝いの懸垂幕を掲げるとともに11月7日の襲名披露公演初日には歌舞伎文化公園に隣接する農村広場グラウンドにてお祝いの花火を打ち上げました。併せて、11月11日には歌舞伎座での鑑賞会を実施し、68名が参加しました。

当日は、長崎知事にも駆けつけていただき、県、町、松竹株式会社、市川團十郎事務所との関係構築に寄与したものと考えております。

11月6日には、六郷庁舎と六郷町民会館でふるさと秋まつり「はんこ日本一六郷の里秋まつり」を新型コロナウイルス感染拡大に配慮した形で開催し、約800人の来場がありました。中でも、恒例の篆刻表彰においては、これまで町長賞が最高賞でありましたが、今年度は最高賞として新たに知事賞をいただけることとなりました。

また、市川三郷町商工会青年部の企画で職業体験コーナーは、創意工夫が施され、多くの方の目を引いていました。

峡南地域ネクスト共創会議においては、先の臨時議会で補正予算をご議決いただき、早速、県、峡南5町とで構成する協議会にて、観光戦略策定業務委託と周遊観光用シェアサイクル整備事業に着手しています。

来たる12月10日と11日には、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮した形で、みたまの湯において大塚にんじんの直売会を開催します。

次に【日本体育大学との連携協定について】です。

11月18日、連携自治体の一つとして、東京都内で行われた「NITTAIDAI×自治体フォーラム2022」に招かれ出席し、体育、スポーツ、健康づくりの交流により地域を活性化することについて、多くの情報を得てまいりました。当日は市川三郷町を拠点に活動するアマチュアビッグバンド「ジャストサウンドオーケストラ」が演奏を披露し、出席していた全国の自治体関係者に町を知っていただく機会にもなりました。さらに、この連携協定により、明日、明後日の2日間、生涯学習センター体育館において日本体育大学の代名詞でもある「集団行動」の公開練習を行っていただく貴重な機会をいただいております。

大塚にんじん直売会と併せてご来場くださいますようお願い申し上げます。

前定例会以降の主な動きについてと私の所信の一端をご報告させていただきました。議員各位には格別なご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、【提出案件について】です。

「市川三郷町個人情報保護法施行条例」の制定など、今議会に提出いたします議案は、条例制定1件、条例中改正2件、予算案8件です。

議員各位におかれましては、よろしくご審議を賜わり、ご議決あらんことをお願い申し上げ所信といたします。

令和4年12月2日
市川三郷町長 遠藤 浩